



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

パナマ日本人学校における少人数指導の工夫と実践

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-07-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西村, 憲人 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00174242

パナマ日本人学校における少人数指導の工夫と実践

前パナマ日本人学校 教諭

大阪府大阪市立小松小学校 教諭 西 村 憲 人

キーワード：少人数，国語教育，パナマ，地域の特性，保護者のニーズ，国際交流

1. はじめに

中米の南端に位置する常夏の国、パナマ。この国の日本人学校では小学校1年生から英語・スペイン語の授業が行われている。しかしながら、保護者のニーズはこうした外国語の習得よりもむしろ、国語の確実な定着や少人数を生かした指導にある。なぜならば、日本とは言語環境が大きく違い、日々の生活の中で日本語に触れる機会は少なく、そのために、日本で育つ子ども達と比べ、語彙力に少なからぬ開きがあるからである。多くの家庭ではそうしたハンデキャップを克服するために読書などを推進しているが、それだけで全てが補えるというわけではない。そこで、こうした環境に育つ子ども達の言語力を育成するために、パナマ日本人学校の特性をいかした国語教育の実践について記したい。

2. パナマの特色

パナマは人口300万程の国で、その3分の1は首都パナマシティに住んでいる。気候は年中を通して温暖で、4月～11月までの雨季と12月～3月までの乾季がある。貧富の差が大きいことなどから、治安は決して良いとは言えず、日本人学校に通う児童生徒は原則スクールバスを利用している。スクールバスや学校には銃を携えたガードマンが常駐し、安全を確保している。そのため、放課後に子ども達だけで友だちと遊ぶということはできず、必ず大人がついている状況で誰かの家で遊んだり、マンションの広場で遊ぶというのが日常である。そのため、放課後に子ども同士が日本語で会話するという時間も日本の子ども達に比べて少ないと言える。

3. 日本人学校の現状

パナマ日本人学校は小規模校であり、平成23年度は児童生徒数が12名、教員数が校長を含め5名であった。特にここ数年の児童生徒数の減少は顕著で2009年からの3年間で全校児童生徒数は半数以下となった。少人数であるがゆえに、学校の雰囲気はアットホームであり、小学1年生から中学3年生まで非常に仲良く過ごしている。また、少人数での学習のため教師の目がよく行き届き、個に応じた指導が可能である。しかし、少人数であるがゆえの問題点もある。学習の中で友だちと意見を交流する場が少ないことや、多種多様な考えに触れる機会が少ないことである。また日本に比べ、子ども達が生活の中で日本語に触れる機会が少ないため、学校における国語教育への保護者の期待は非常に高い。

4. 国語教育における実践

児童生徒数の減少によって、発表の場や交流の場を確保するために、これまでの取り組みとは違った取り組みが必要となってきた。こうした現状を踏まえ、国語教育において以下の取り組みを行った。

①スピーチ大会

上記のように、各学年の国語の授業では、話し合いの学習を通して意見を深めたり、全員の前で発表をしたりする機会が十分にとることができていなかった。したがって、その現状を解決するために、朝の集会の時間を活

用して学期に1回の「スピーチ集会」を行った。これは、各学年での「話す・聞く」単元での学習成果を発表する場として用いることにした。国語で学習したことを全校の前で発表する機会があり、子ども達も目的意識をもって学習に取り組むことができた。高学年についてはディベートを全校の前で行い、自分達の意見を聞く人に評価してもらうことができた。これによって児童が互いに相互評価をする場も確保することができた。



スピーチ集会の様子

②百人一首大会

低学年の児童から高学年の児童まで、全員で百人一首大会を行った。全員が朝の学習や帰りの学習などで歌の暗記に取り組み、12月にその成果を大会で競った。グループに分かれてのリーグ戦の後に決勝トーナメントを行い、上位者を表彰した。低学年の児童もたくさん歌を覚えることで、高学年の児童に勝てるということで高いモチベーションで取り組んでいた。様子や結果を学級通信に掲載することで、保護者の関心もより高くなった。

③国語の発表の場の確保

読み取った物語をペープサートや紙芝居に表して、休み時間に発表をするという活動を行った。普段の授業ではグループで取り組んだことを発表する機会がないため、全校の児童に発表を行った。他学年の発表を聞くことで、他の学年の学習内容を知る事ができ、発表する側も目的意識をもってグループ活動に取り組むことができた。また、ひとつのものを作り上げる過程で、互いに話し合うこと機会ができ、交流の場をもつことにもつながった。

5. まとめ

以上の取り組みにより、子ども達は少人数でありながら、交流や発表の活動に取り組むことができた。そして、交流や発表などの言語活動により、子ども達の国語力は確実に向上していった。また保護者からからも多くの感謝の声を聞くことができた。